

第四回 モンゴルが抱える問題

鈴木元

日本人のモンゴル像は、どこまでも続く草原に暮らす遊牧民。夜空に輝く無数の星、それに最近では大相撲にやってくる相撲取りと言うところだろう。実際、日本人が訪ねるのは、草原と星を体験する8月の夏休みに限定されている(この時期しか関空や成田からの直行便は飛んでいない)。しかしこれはモンゴルの一面である。

乾燥化・砂漠化については前回書いたのでここでは別の問題について触れる。訪ねたことがある人は体験されているが、首都のウランバートルは社会主義時代に作られた近代都市であり、電柱・電話線・水道・ガスそれにスチーム暖房用の温水パイプなどが地下の共同溝に設置されており日本のいかなる都市よりも整備された街である。

ところが前回書いたようにウランバートル(旧市街地には約50万人が居住)の郊外には東アジア最大のスラム街

(約70万人が居住)が広がっている。ウランバートルは冬にはマイナス30-40C度なる。人々は暖を取るために各家(ゲルと言われるテントを含めて)で昔日本の学校で使われていたような石炭ストーブを焚く。そのため煤煙が街を覆い北京を含めた中国のいかなる都市よりもPPMの濃度が高く視界が遮られるとともに気管支・肺などの呼吸器系の病を患う人が多い。市民も市当局も冬には大騒ぎするが、冬がさり、ストーブを使わなくなると青空が広がり、多くの人々は問題にしなくなる。



ゲル地区

モンゴルの基幹産業は鉱物産業でありGDPの半分近くを占めている。しかし鉱物産業に従事しているのは5%程度であり、その鉱山主たちは大金持ちでウランバートルの高級マンションに住んでいる。このマンション建設に従事する建築土木労働、そしてこうした金持ち達を対象としたサービス産業に従事する人々はスラム街に暮らしている。公共交通網が整備されていないウランバートルでスラム街から市街地にやってくるためには車での移動しかない。そのため朝夕には、ものすごい交通渋滞が起こっている。なお、他のアジアの国々と違って一年の半分以上が寒いモンゴルではオートバイでの移動は無理で基本的に車である。しかも市街地を除けば舗装道路ではなく地道であるため日本製の四輪駆動車が大人気である。

外見上では判らないので日本人のほとんどの人は知らないが、モンゴルの国民病はC型肝炎であった。原因は日本と一緒に60年代中頃まで予防接種に際して注射器の使いまわしが行われていたために国民的にひろがり、一時国民の20%がC型肝炎に罹っていた。最近になってようやく治療ワクチンができたために抑制されてきた。

これらの問題に私がどのようにかかわってきたかを次回以降に記すことにする。写真はウランバートルの郊外に広がるスラム街、移住してきた時は取りあえずゲルと言われるテントを建てて住んでいるので通称ゲル地区と言われている。市街地で安定した職を得た人々は木造の家を建てている。



スラム？ 治安？ コロナ渦？ 藤井 佐富

ナイロビ市には「キベラ」という100万人を越える世界最大規模のスラムをはじめ、街の周辺地域は全てスラムです。凄い人口密度と入れ替えの激しさで正確な人数は不明です。「エイズの治療など休みがちな上に、体力も無く半日しか働けないが、メイドとして雇ってくれないか？」と頼まれた事がきっかけで、メイド(残念だが3年前に死去)の住む「カワングワレ」というスラムに出入り出来るようになりました。

メイド家族は、長屋の一角の狭いひと部屋に夫婦と子供2人。物は一杯なのに非常に綺麗(ケニア人は綺麗好き)です。屋根はトタン一枚。光が漏れ雨漏れもします。煮炊きはマキで水道もなくスラムの一角にある水場で購入します。体験したけど重労働です。ゴミ収集の制度がないので、一角に野積みされ異臭が漂っています。水たまりにはメタンガスが吹き出している所もあります。靴は泥とヘドロでベタベタになります。



ゴミも流されてきて



スラムの町並



スラムマーケット



長屋と住人

スラムでの買物は楽しいですよ。紛争地などに送られた支援物資が横流しされナイロビに集中。衣服や靴など世界中の良品(だけではない)が露天で野積みにされて安く売られます。それを値切って購入する。もちろん、帰ったら泥と虫を殺すために一晩熱湯に漬ければなりません。絶対に！

スリや強盗は日常茶飯事、貧困が最大の原因です。マツで集団スリ(4人)に囲まれ、私は1,600シル(1,600円位)入った財布を盗まれています。自分は大丈夫と思っている妻は「被害金額は少ないし、嫌なことは忘れよう!」と私を慰めてくれたけど、自分の携帯電話も盗まれた事に気づくと「何で!あの時おかしいと思った!」と怒り心頭!その夜は娘から「気を抜いているから!緊張感を持って!」と叱られました。カバンは持たず、腕時計もせず手ぶらが外出の基本です。お金も必要以上の現金は持ち歩かない!結局、滞在中に2回、スリ/強盗?を経験しています。2回目は被害に遭わず逃げ切っています!



狭いが綺麗な部屋

私たちは、「チャイルドDr」(母体は八尾病院)を通じて、脳性麻痺のライオネル君の医療支援を10年行っています。月に2度近況報告が入ります。コロナ感染状況、感染患者数(11月15日現在)は69,272人。死亡者数は1,249人。7月初旬、ナイロビの都市封鎖は解除されたものの、午後11時から午前4時までには外出禁止になっているそうです。日中もマスク無しの外出は禁止。

ケニアは、恐ろしいほどの格差社会です。初めてケニアに行った21年前から何も変わっていません。以前に記したように庶民の医療体制は深刻です。圧倒的多数のスラムに住む人々が本当に心配です。「チャイルドク」を検索してみてください。